

平成 28 年度 第 1 回 新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時： 平成 28 年 10 月 13 日（木） 15 時 ～ 17 時
会 場： 新潟市豊栄地区公民館 視聴覚室
出席委員： 10 名
阿部紀夫、伊藤裕美子、小黒忠、小島勝治、里村洋子、杉本耕一、鈴木梢、
田村祐一、寺山知子、本間修一（敬称略）
欠席委員： なし
傍 聴 者： なし
事 務 局： （北区郷土博物館） 頓所洋一館長、神田直子主任（学芸員）、塩原賢信主査、
曾部珠世非常勤嘱託職員（歴史）
（北区地域課） 清水斎課長
資 料： 資料 1、資料 2、資料 3、資料 4（当日配布）

会議概要

1 開会

司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩原賢信主査

ただいまから平成 28 年度第 1 回目の新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。
本日は委員 10 名全員が出席され、会議は成立しています。傍聴はありません。

2 杉本耕一協議会長あいさつ

本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

昨年からは新しい常設展が開始され、この 11 月 3 日にいよいよグランドオープンを迎えます。新たな出発点に立つ博物館にとって、今年は重要な年だと考えています。この協議会では、グランドオープンにむけた取り組みなども話し合われるかと思いますが、みなさまから有効なご意見を頂戴し、よりよい博物館となるよう、その活動を支援していきたいと考えています。みなさま、どうぞよろしくお願ひ致します。

3 清水斎課長あいさつ

委員のみなさまには、いつも大変お世話になっております。本日はご多用のところお集まり下さいまして、まことにありがとうございます。

各区のなかで、「博物館」を管轄しているのは北区地域課しかありません。博物館は、北区地域課が管轄する大切な文化施設の一つですので、施設・設備の維持管理をきちんと

行いたいと思っています。現在も、修繕工事を行っておりますが、来年度以降も、さまざまな修繕を考えています。みなさまにもご協力をいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願い致します。

4 頓所館長あいさつ

みなさまには、ご多用のところお集まり下さいまして、ありがとうございます。

4月から宮崎館長の後をうけて館長に就任いたしました。よろしくお願い致します。

平成26年度からの「区づくり事業」が今年度で区切りがつかます。しかしこれは事業の終了ということではなく、杉本会長のおっしゃったように、新たな出発点に立ったにすぎません。「豊栄博物館」から「北区郷土博物館」と名称を変更した大きな目的に向かって、さまざまな事業に取り組んでいきたいと思っておりますので、みなさまにはこれからもご支援、ご理解をよろしくお願い致します。

司会（塩原主査）

では、これより議事進行を杉本会長にお願いします。

5 議事

（杉本会長） では早速、議事に入りたいと思います。

まずは会議次第の議事（1）「平成28年度前期の新潟市北区郷土博物館事業報告について」、博物館から報告をお願いします。

（1）平成28年度前期の新潟市北区郷土博物館事業報告について

（神田） 平成28年度前期の事業について、資料1に基づいて報告。

<質疑応答>

（杉本会長） 今年度前期だけでこれだけたくさんの事業を行ったということで、職員のみなさまのご苦労が察せられます。この事業報告について、ご質問やご意見はありますか。

（伊藤委員） 資料中の2.講座（2）「夏休み手織り体験教室」では、「北区内」に限らずに募集をされたということですが、参加者の内訳はどのようなものだったのでしょうか。

（神田） 例年、新潟市内の「北区外」からの参加者が多いです。会場となっている「横井の丘ふるさと資料館」は、車以外の手段では行きにくい場所ですので、保護者の方が同伴されます。子どもは葛塚で使われていた高機（たかばた）で織るのは難しいので、体験用の機で細く裂いた布を織り込む「裂き織り」を体験してもらうわけですが、保護者の方々には、それを待っている間に高機での織りを体験していただいています。実際は、親子それぞれから体験していただいていることとなります。

(伊藤委員) 4. 文化財保護事業(2)「北区内郷土芸能保存団体情報交換会」について、開催目的や今後の予定についてなど教えてください。

(頓所館長) ご案内した団体は23団体です。会では、神楽等郷土芸能の保存のための人材育成や予算の確保など共通の話題が浮かび上がり、大変有効な情報交換会となりました。また、郷土芸能の発表についても話し合いが持たれ、これまでは当館の「博物館まつり」での発表が中心でしたが、今年は、それとあわせて、同日に競馬場で開催する「キテ・ミテ・キタク」でも行うことになりました。去年は、博物館まつりで9団体が出演しましたが、今年は2会場で15団体が出演します。この事業につきましては、来年度以降も開催していきたいと考えています。

(阿部委員) 1. 企画展「常設展拡大企画「遠藤七郎展」」は、非常によい取り組みだったと思います。今回、1,000人近い入館者があったようですが、みなさんどのような感想をもたれたのでしょうか。

(曾部) 会場にアンケート用紙を置いて、観覧者の方々から記入していただいたのですが、回答して下さったほとんどの方々には満足していただけたようです。

(阿部委員) 現存する資料が極めて少ないなかで、最大限の資料を展示していただき、本当によかったと思います。今後も追跡調査して取り組みを続けてほしいと思います。

(本間委員) 展覧会リーフレットのなかに「遠藤七郎関連マップ」というのが差し込まれていますが、これは街歩きに使えますので大変によいですね。遠藤七郎はマスコミでも取り上げられ、有名になりましたので、今後も大いに盛り上げてほしいと思います。

(杉本会長) 遠藤七郎展を担当した曾部さんが、資料を深く読み込んで、少ない資料から遠藤七郎の生きざま、人物像を浮かび上がらせたことに、大変感心しました。

(阿部委員) 以前は、郷土史講座を博物館で行っていたかと思いますが、機会がありましたら、このようなテーマで講座(あるいは講演会)をやっていただきたいものです。

(鈴木委員) 各講座の参加人数は、博物館で想定された人数と比較してどうだったのか、あるいは企画展、特に恒例の企画展の入館者数の推移はどのようなのでしょうか。

(頓所館長) 講座事業については、「こども博物館」を事例としてお話をさせていただきます。以前の「こども博物館」は、通年の事業だったため、募集しても参加者がほとんど集まらないということが数年続き、事業が中断していました。

常設展リニューアルを機に、「こども博物館」の復活が計画されていましたが、小学校高学年が部活や塾で忙しい現状のなかで、1年を通して参加する事業は難しいと判断しました。そこで単発事業としてのプログラムを再検討しました。定員を10名と想定し、北区

内の小学校を通して児童に周知をお願いしましたが、やはり集まりませんでした。次なる手段として、近くの小学校に限定して、対象児童全員にチラシを配布してもらった結果が、この参加者の数字です。今後は、団体とか施設などと連携してやっていく必要があると考えています。

(神田) 私からは、恒例の企画展「松蔭賞書道展」「北区こども科学展」「北区ジュニア絵画展」についての入館者数をご報告します。「松蔭賞書道展」については、ここ4年間の資料では、1,000～1,100人と、ほぼ同数です。科学展については、過去3年間は、900～1,100人と、ほぼ同数でしたが、今年は730名で、昨年と比べると300人ほど少なくなっています。ジュニア絵画展は、500～600人というところで落ち着いています。コンクールですので、入館者のほとんどが、入選者とその家族・親戚・知人であるということがその理由だと思えます。

(鈴木委員) 「遠藤七郎展」のように作り込んだ企画展があるのに、そういったせっかくの展示と、講座・教室との関連性があまり感じられないように思います。博物館のみなさんがメッセージを発する「企画展」を中心に据え、それを基盤として講座などの事業を展開させると、トータルな活動としてみえてきますし、博物館が外に向けて伝えたいことがはっきりし、また、(私たちにも) 伝わるものがあると思うのです。

(曾部) 正直なところ、「遠藤七郎展」では、それと関連づけたこどもの講座の開催は難しいと思います。まず、「歴史」自体がこどもには理解が難しいものです。後期に予定している二つ目の「常設展拡大企画」の「昭和のくらし」では、こどもの体験教室などのプログラムが可能かと思えます。

このたび、「こども博物館」で行った「勾玉」や「土器」といったプログラムは、常設展示にリンクするもので、常設展に親しんでもらうための試みと考えています。

(鈴木委員) 「こどもの講座」だけのことではなく、事業展開の考え方のことを申し上げたつもりです。企画展に関連する解説会とか、ワークショップなど、さまざまな事業を、企画展に絡めて行うような事業展開ですと、企画展を中心とした活動のあり方がみえてきますし、企画展の内容も深められますし、また観覧者の方々の理解も深まるのではないかと思います。こちらの博物館でもさまざまやっつけやっつけするのは、ご案内をみて知っていますが。

(伊藤委員) 博物館のスペースは限られていますが、催し物の案内、観覧者の声など情報発信のコーナーがあるといいと思います。

(頓所館長) これについては、館内で相談しながら考えていきたいと思っています。博物館の催し物案内の看板については、正面玄関には、大きな看板を出しています。緑道側の入り口については、手作り看板や、ポスターを掲示していますが、実際のところ見えにくいのです。緑道側のスペースには、見やすい場所を選んで、企画展等や事業の周知をはかる看

板を設置したいと検討しているところです。予算をみてとのことになりますので、最終的な決定はこれからというところです。

(伊藤委員) 修繕を進めるとのことでしたが、駐車場の修繕もぜひお願いしたいです。

(2) 平成 28 年度後期の新潟市北区郷土博物館事業予定について

(神田) 平成 28 年度後期の事業について、資料 2 に基づいて報告。

<質疑応答>

(杉本会長) 後期の事業予定について、ご質問やご意見はありますか。

(里村委員) 常設展拡大企画「昭和の暮らし」を、とても楽しみにしています。ホールの半分を使うということで、限られたスペースとなりますが、何をテーマにして展示をされるのですか。

(曾部) 博物館まつりで、「機織り」や「ワラ細工」の体験コーナーを、例年設けていますが、じっくりと資料を見ていただく機会がないので、今回は「農家の冬の仕事」をテーマに、いろいろなものを無駄なく使っていた昔の人々の暮らしを紹介したいと考えています。

この「昭和の暮らし」は、学校の「ふるさと学習」と関連づけていこうと思います。また、暮らしをさまざまなテーマから捉えるために、毎年継続していくべきものと考えています。

(阿部委員) 博物館は、膨大な資料を所蔵していますが、一度にたくさんの資料を見ることができません。「昭和の暮らし」では、豊富な所蔵資料を大いに活用して、体系的な企画として継続していただきたいと思います。

(伊藤委員) 「市民ガイド」の今後の予定あるいは方向性について教えてください。たとえば、来年度も新たにガイド希望者を募集して養成するのか、あるいは現在のガイドに対し、ステップアップ講座を行うのかなど、どのように考えていますか。

(頓所館長) ガイドのみなさんには、『学習ノート』を解説のための基礎テキストとして使用していただいています。ガイドの役割は、常設展示と学習ノートを関連づけて、展示と地域を結びつけていただくことだと考えています。そのように考えますと、現在の 14 名ではまだまだ少ないと思います。もっと多くの方々に関っていただきたいと思いますので、今後も新たなガイド養成講座を開催して行きたいと考えています。また、現在のガイドのステップアップ講座も考えています。11 月 3 日のデビューを終えた後で、状況をみながら考えていきたいと考えています。

(3) 特色ある区づくり事業（常設展リニューアル等）事業報告と予定について

(神田) 特色ある区づくり事業（常設展リニューアル等）事業報告と予定について、資料3に基づいて報告。

<質疑応答>

(杉本会長) 常設展リニューアル事業等について、ご質問やご意見はありますか。

(阿部委員) ようやくここまで漕ぎ着けたという感です。その中でも『学習ノート』という大変素晴らしい資料が出来あがり、現在1,000部増刷を進めているとのことですが、その使い道について、どのように考えていますか。

(神田) (『学習ノート』は、小学6年生以上を対象に、実際は5年生もカバーできるようなレベルを想定して作成しました。初版の300部については、北区内の学校、図書館を中心に、博物館、資料館などの文化関係機関に送りました。)

(頓所館長) 今回の増刷にあたっては、「ふるさと学習」で博物館を利用する区内の小学3年生も、このノートを使って学べるように、一学年の児童数約700人分の学校への配置を考えています。それから、北区に限らず幅広く一般の方々からも求めていただけるように、原価に近い価格で頒布することを考えています。

(阿部委員) 横井の丘ふるさと資料館の耐震診断を昨年度にされたわけですが、この結果についてはどのように反映されていくのでしょうか。

(頓所館長) 耐震化をはかるための予算要求を、継続していきたいと考えていますが、早々の実現は難しいので、その間は、観覧していただく方法を検討し、対応していく必要があると考えています。

(杉本会長) 「学習ノート」の話題に戻ります。北区内の学校に一学年分を配置するというお話がありましたが、毎年、3年生全員に個人用として配布することが望ましいと思います。博物館の予算では難しいとは思いますが、すばらしい教材ですので、教育委員会とか行政等の措置でなんとか可能になるといいと思っています。

(頓所館長) 新潟市8区のなかの一つの区としての、特別な事業の一環として作成したわけで、今後、それを通常の運営のなかで継続していくとなりますと、通常予算のやりくりでは厳しいと思っています。実現するための方法を探ってみて、可能であれば、ということになるかと思っています。

(4) 常設展示グランドオープン記念式典について

(頓所館長) 常設展示グランドオープン記念式典について、資料4に基づいて報告。

<質疑応答>

(杉本会長) 記念式典等について、ご質問やご意見はありますか。

(伊藤委員) 当日は市民ガイドのデビューの日です。講師として指導をして下さった宮崎前館長は、ガイドの解説に立ち会って下さるのでしょうか。

(頓所館長) ガイドにはもちろん立ち会われるはずですよ。

(5) その他

<質疑応答>

(杉本会長) その他、ご質問やご意見はありますか。

(小島委員) 来年度以降の事業については、どのようにお考えですか。

(頓所館長) リニューアルした常設展示を生かした事業展開がベースになると思います。それから、より多くの方から博物館に来ていただきたいので、企画展や講座などの事業を併行してやっていきたいと考えています。企画展については、収蔵資料の活用という観点で考えていくことになろうと思います。

常設展リニューアルに関する事業は、3か年の地域再発見事業の一環としてのもので、今年度で終了します。次年度以降は、区づくり事業による、郷土芸能の活動支援を中心とした事業を考えているところです。郷土芸能については、一度、情報交換会を開催しています。神楽は、「神事」という点から行政がどこまで関わるかという問題もありますが、情報交換会での話題では、人材と予算という共通の課題が浮かび上がりました。ある地区の神楽は現在、活動を休止している状態ですが、この状況はどの地区にとっても切実であろうと思います。当館では、郷土芸能の記録をとるという調査研究の業務も含めて、それらの継承支援を現在、検討中でございます。予算に基づいた事業展開が来年度から可能になるかどうかは未確定ですが、現段階ではそういったことを考えているところでございます。

(小島委員) 再来年度は、明治維新から150年目にあたります。遠藤七郎の研究成果をより深め、明治維新をテーマとした展覧会を計画されたらよろしいのではないかと、提案する次第でございます。この年は全国的にさまざまなイベントが催されるかと思っておりますので、宣伝効果も期待できると思います。

(阿部委員) それと関連して、北区の明治維新をテーマとして、郷土史講座を企画されたらよろしいのではないかと思います。

(頓所館長) さまざまなご提案をいただき、ありがとうございます。しかし、新たに「企画」をするということは、そのための調査を行ったり、研究したりという大変な業務

量を伴います。恒例の事業がたくさん予定されているほかにそれを行わねばなりません。この少人数の体制で、どこまで実現が可能かという現実的な問題があります。これから館内でよく検討していきたいと思います。

(杉本会長) 委員のみなさまからの次年度以降のご提案がさまざまありました。しかしながら、現実的な問題として資料が現存していなかったり不足していたりということから、企画を組み立てることが困難なテーマもあります。ご提案のほかに、資料のご提供などのご協力もお願いしたいところです。委員のみなさまには、今後もより一層のご協力をお願い致します。

(杉本会長) では、議事を終了します。

6 閉会